

前装銃から後装銃へ

19世紀まで、ほとんどの銃はマズルと呼ばれる銃口の部分から装填されていた。銃口から火薬を注ぎ、弾丸を入れ、竿で叩いてから銃を水平にして発射する。そのため、装填と発射には時間がかかり、手間がかかった。

背面から装填する銃器（後装式）は、少なくとも16世紀には存在していた。しかし、この銃は装填が早く簡単な反面、火薬が爆発する時の衝撃で割れたり破裂したりすることがあった。19世紀になって、金属加工の進歩とカートリッジ弾薬の開発によって、この問題は解決された。その後、銃器は後装式が主流となった。

現代の弾薬は、弾丸と火薬と打撃感応式点火装置を組み合わせたカートリッジが主流である。弾丸はクリップや弾倉を利用して素早く装填することができ、連射速度が大幅に向上する。カートリッジは火薬の量を細かく規定できるため、バラ火薬に比べて銃身の消耗が少ない。